

# 要望書

近鉄四日市駅・JR四日市駅周辺整備事業について



※イメージであり、整備内容を決定するものではありません

令和3年11月

四日市市

平素は、四日市市の政策にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

四日市市は、東西交通の要衝に位置し、古くから東海道の宿場町、港町として栄えてきました。近年では、臨海部の産業集積に加え、内陸部に世界最先端の半導体工場が立地するなど、我が国有数の産業都市となっています。

また、新名神高速道路をはじめとした広域幹線道路網の整備が進むとともに、2027年にはリニア中央新幹線の東京から名古屋間が開通する見通しとなっており、四日市市には、中部圏域の一翼を担う都市として、さらなる飛躍が期待されています。

しかし、本市の中心市街地において、鉄道やバスの乗降客が1日で6万人を超える県内屈指の交通拠点となっている近鉄四日市駅では、バス乗り場の分散や各交通モードの混在、歩行者スペースの不足などにより利用者の安全性や利便性、快適性が損なわれています。

また、近鉄四日市駅から1.1km程東にあるJR四日市駅を結ぶ中央通りでは、楠の並木など良好な景観を誇る一方で幅員70mの空間を活かしきれしていないなど、まちなかの賑わい創出が課題となっています。

本市では、この課題解決に向けて、令和2年度から社会資本整備総合交付金事業(都市・地域交通戦略推進事業)による支援をいただきながら、駅前広場や歩行者デッキの整備、歩行者中心の道路空間への再編に鋭意取り組んでいます。

このような中、国土交通省におかれましては、令和3年度の都市・地域交通戦略推進事業において、近鉄四日市駅・JR四日市駅地区を個別補助配分箇所として採択していただき、駅・駅前広場と周辺街区の一体的な空間整備を進め、利便性・快適性・安全性の高いゆとりある駅まち空間の形成を図る事業として、さらなるご支援をいただきましたことに大変感謝しております。

本市といたしましては、リニア時代の到来やポストコロナへの対応などを踏まえ、変化・多様化する人々のニーズに対応した、居心地が良く歩きたくなる魅力的なまちなかの実現を推し進めてまいりますので引き続き、必要な予算を配分いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

令和 3年 11月

四日市市長 森 智広



※イメージであり、整備内容を決定するものではありません